

取組実績の概要 【2ページ以内】

本取組は、日本と東南アジアに関するリテラシー、及び①課題解決能力、②関係構築能力、③環境適応能力という3つの現場力を有し、様々な分野で日本とASEAN諸国との架け橋になり得る「実務型リーダー」を育成することを目的として、7カ国17大学との間で、長・短期の交換留学プログラム、ダブルディグリープログラム、SENDプログラム、実務実習、及びタイ・バンコクに設置した明治大学アセアンセンター（以下、「アセアンセンター」という。）を活用しての遠隔授業やワークショップ等、多層的にプログラムを展開するものであった。

本取組の実施によって学内におけるASEAN地域への興味・関心が高まった結果、同地域との学生交流を含む協定の増加、同地域をフィールドにした短期交流プログラムの新設、及び同地域への交換留学希望学生の増に繋がり、補助支援期間である平成24～28年度の5年間に、のべ1,052名（派遣589名、受入463名）の学生交流実績を達成した。

本事業を通じて開設した科目はそのほとんどが正規科目として、補助支援期間終了後も継続して開講する予定であり、今後も日本とASEAN地域との架け橋として活躍できる「日本ASEAN実務型リーダー」を継続して輩出する。

【交流プログラムの内容】

各学部・研究科で展開する短期学生交流プログラム、各パートナー校との協定に基づく留学（全学・部局間）に加え、講義とASEAN地域での実務実習からなる全学的な「日本ASEAN相互理解プログラム」科目群を設置し、「実務型リーダー」となるための資質を系統的に身につけられるよう配慮した。

上述科目群のうち国内における講義「東南アジア理解講座」は、ASEAN諸国の文化・社会や日本との関係について、主に同地域出身の講師から学ぶものであり、国際機関や在京各国大使館などのスタッフを招いての講義や、TV会議システムを利用しアセアンセンターに常駐するタイ人講師が講義を提供する遠隔授業を提供した。

同じくパートナー大学において受講する「東南アジア文化・専門集中講座」は、パートナー大学が所在する国の政治、経済、文化、社会に関する内容の英語による講義を受講するものであり、参加を通じて実践的な英語力を養うとともに、ASEAN地域への理解を一層深めることができるものである。

また実務実習「東南アジア実習」「短期東南アジア実習」は、ASEAN地域で活動する企業、国際機関、非営利組織等で一定期間実務実習に従事するものであり、同地域で実際に働くことの実験を体験できる機会である。

【質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成】

平成25年8月、本事業パートナー大学の学長・学部長クラスの教員を招聘し、日本とASEAN諸国との教育交流に関するコンソーシアム会議を開催し、学術交流のあり方やアセアンセンターの活用方法について意見交換を行った。ASEANと日本の大学の学術交流、建築分野における学術交流、タイと日本の大学の学術交流という3つのテーマについてセッションに分けて進行し、英語学位コースやダブルディグリーなどの必要性、都市政策、環境問題など広い分野での学際研究の必要性、タイと日本の大学のさらなる交流の必要性について共通認識を持った。

また平成29年3月には、アセアンセンターを会場として、本事業パートナー各大学の関係者を招聘し、本事業の主な取組を振り返るとともに、主として事業実施を通じて発現した効果や今後の展望について議論することで本事業を総括することを目的としたシンポジウムを開催した。ここでは、数週間から1ヶ月程度の短期間の学生交流プログラムからより長期の学生交換プログラムの構築、共同学位プログラムや共同研究等のより高度な大学間協力への展望をテーマに事例共有と議論を行った。特に、交流実績の事例と課題について共有のうえ具体的な議論ができたことは、事業終了後の学生交流と教員・研究交流の継続的な推進にとって有意義であった。

協定留学制度の運用に当たっては、単位互換可能な科目や単位数を事前に明確にし、また短期プログラムにおいては、シラバスにおいて成績評価の基準や学部ごとの単位認定の有無を明確にしている。加えて、本学の提供する多彩なグローバル教育や支援制度を紹介するための冊子「GLOBAL NAVI」を発行し、各学部で学ぶ専門知識を活かし日本とASEANの架け橋となるグローバル人材を目的として本プログラムに適切

に導いており、学生にとっての利便性の向上に努めた。

【外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備】

本事業の推進のため、国際連携機構で特任教員1名を雇用するとともに、各学部等事務室担当者との円滑な連携体制を構築し、インバウンド・アウトバウンド双方の学生に対して履修指導や渡航に関するサポートを行った。加えて、タイのパートナー大学から本学へ留学する学生に対しては、アセアンセンターに常駐させたスタッフ2名が渡航前日本語教育や日本での生活に関するアドバイスの提供も行った。平成27年4月には、アセアンセンターの機能強化を図るべく、上述に加えて特任教員1名を採用しセンター長として配置することにより、在タイの関係各機関との連絡調整をより効率的に行えるようになった。

本学から海外へ留学する学生全体に対する危機管理体制として、国際教育センターにおいて運用している危機管理マニュアルをベースに、海外緊急時対応にかかる豊富な知見を有する損害保険会社及び旅行会社と共同で、「危機管理シミュレーション」演習を実施し、問題点の総点検を行った（平成28年3月）。また現在の危機管理体制の高度化を図るため、プログラム参加学生の安否確認システムを平成27年度春期プログラムからテスト導入を行っている。

本学で学ぶ留学生全体に対するキャリア支援として、英語版就職ガイド冊子を作成・配布のうえ留学生向け説明会を実施するとともに、日本での就職活動の基本的な進め方を指導する「就職・進路ガイダンス」をはじめ、「ビジネス日本語講座」「筆記試験対策講座」「エントリーシート対策講座」「OB・OG及び内定者との交流会」「合同企業説明会」を開催する等、日本国内で就職を希望する留学生に対し手厚いフォローを行った。

【事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及】

本構想の推進のため、国際連携機構が中心となり、各学部の学部長あるいはASEANとの交流担当教員を構成員とする委員会を立ち上げ、教職員間の情報共有、意思疎通、プログラム運営上の調整などを行う体制を構築した。後に国際連携運営会議、国際連携本部執行部会議に推進機能を移し、継続して事業の発展に取り組んだ。

本構想の取組や成果については、大学ウェブサイト上に専用のページを設け、長短期各種交流プログラムの実施概要や参加者の声など、日常的に情報を更新して積極的に発信することに加え、本事業にかかる新聞雑誌の取材にも積極的に応じ、国内外の大学や産業界への情報発信に努めた。特に専用ホームページでは、本事業に関するプログラムを通じて留学を果たした本学・パートナー大学学生の声を、日本語、英語に加え、寄稿した学生の母国語で掲載することで、本事業の成果を広く周知することができた。

【本事業における交流学生数の計画と実績】

	平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
計画※	50人	50人	75人	75人	110人	105人	135人	130人	160人	155人	530人	515人
実績	17人	10人	139人	86人	127人	115人	135人	111人	171人	141人	589人	463人

※海外相手大学を追加している場合は、追加による交流学生数の増加分を含んでいる。

特筆すべき成果（グッドプラクティス）【1ページ以内】

○本事業への採択を機に情報コミュニケーション学部で開講した科目「国際交流（ベトナム）」の受講者が、外務省が主催、文部科学省等が後援して開催された「日本と国連の将来 動画メッセージコンクール」において、外務大臣賞を受賞した。

<http://compe.japandesign.ne.jp/kokuren60-message/result/index.html>

「国際交流（ベトナム）」は、東京とハノイの都市社会インフラ（公共交通システム、水、再生可能エネルギー、博物館等の観光施設）及びテレビ番組などの比較を主題として、本事業パートナー大学のひとつであるベトナム国家大学ハノイ外国語大学日本語学科の学生たちとの交流を通じて考察するものであり。同大学からの学生の受入、同大学への短期派遣留学及びSENDプログラムで構成されている。

○農学部で開講している「国際農業文化理解プログラム」の一環として、本学学生が国際連合食糧農業機関アジア太平洋地域事務所（FAO-RAP）において、同所のバックアップを得つつ、本事業パートナー大学のひとつであるシーナカリンウィロート大学（タイ）等の学生らと共に「食の安全」の促進をテーマとした模擬国連会議を実施した。

<http://www.fao.org/asiapacific/news/detail-events/en/c/262627/>